

# 港湾振興便り



2012. 8

第64号

\*\*\*\*\*

## 目 次

\*\*\*\*\*

- 1 ポートエッセイ 「舞鶴港から新潟港への大航海 “アートのタネ積んだ船が来た”」  
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

## 2 トピック

- 北海道の室蘭港・函館港がみなとオアシスに登録！  
～みなとに人々が集う拠点づくりを創出～  
(北海道開発局港湾計画課)
- 「港フェスタ金沢2012が開催 ～大勢の人で賑わう金沢港～  
(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)
- 大型クルーズ客船『コスタ・ヴィクトリア』境港寄港と課題  
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 小松島港まつりにて協賛行事を開催  
(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)
- 「クルーズ船見学会」を実施しました！  
(那覇港振興協議会)

## 3 お知らせ

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

## 1 ポートエッセイ「舞鶴港から新潟港への大航海 “アートの日ネ積んだ船が来た”

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

「アートには地域をつなぐ力がある」と実感する出来事が最近あった。舞鶴港を5月に出港した小さな自走船が8月6日、新潟港に入港したのだ。日本海沿岸の港や小さな漁港に寄りながら、80日かけての航海だった。航海を成功させたアーティストたちは、「日本海の美しさの中に、突然現れる原発の巨大建屋。自然の豊かさとその陰にある歪みを実感した80日だった」と振り返っている。

「たねふね」と名付けられたこの船の航海は、舞鶴市やNPO法人らが企画・実行したもので、アーティストの日比野克彦さんが監修した。

各地で朝顔を咲かせ、地域と地域をつなぐアート活動を続けている日比野さんは、舞鶴市民と共に2年がかりで朝顔の形をした自走船を制作。今年7月から新潟市で開催されている「水と土の芸術祭」に参加している縁で、舞鶴～新潟間の航海を企画した。

破天荒ともいえるこの航海プロジェクトは、多くの漁業者や港湾関係者に助けられ、メーカーからパワーアップした船外機の提供を航海途中で受けるなどの支援もあって、見事予定通りの日程で新潟港に着岸した。

「たねふね」には各地で育てられた朝顔のタネが積まれ、寄港先の支援者に寄贈された。代わりに地域の手作り宝物が「たねふね」に贈られた。宝物は新潟市万代島の芸術祭メイン会場で展示されている。船は今後さらに信濃川をさかのぼり、沿川地域の住民とも交流を続けていく。

船長らから航海の様子を聞く報告会が新潟港で開かれ、私も参加した。寄港地は30近くにのぼり、私が名前さえ知らない小さな漁港もあった。「地域ごとに漁のやり方が違い、そのせいか気風も違うと感じた」と船長らは言う。80日もかけて日本海を航海する中で、我々の知らない知識を体得したアーティストたちから、新たな地域のつなぎ方を学んだ「たねふね」の寄港だった。

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

## 2 トピック

\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:\*:

### ●北海道の室蘭港・函館港がみなとオアシスに登録!

～みなとに人々が集う拠点づくりを創出～

(北海道開発局港湾計画課)

この度、室蘭港と函館港が道内で6番目の「みなとオアシス」に認定されましたのでご紹介させていただきます。(平成24年7月9日付同日登録)

「みなとオアシス室蘭」は白鳥大橋のたもとに位置する祝津絵鞆地区と親水緑地を有する入江地区のそれぞれの施設を活用し、市民・観光客に対し交流・レクリエーションスペースを提供して

いくことを目的としています。なお、7月27日に開催された「むろらん港まつり」の会場において大勢の市民・観光客で賑わう中、登録証の授与式が行われました。お祭り会場ということもあり、授与された際には大きな拍手が沸き起こりました。

また、みなとオアシス「函館」は、全国的にも有名な観光拠点の1つである「赤レンガ倉庫群」をはじめ、市民の憩いの場である「緑の島」等の施設を活用し、港を核とした交流機会の促進や観光振興を通じた地域の活性化を図ることを目的としています。登録証の授与式は7月17日に開催された「海の日記念式典」の中で行われました。

今回の登録を契機に、両港においてみなとを核としたまちづくりがより一層推進されることに期待されます。

・みなとオアシス室蘭のHP:

[http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_kowan/minatooasis/minato\\_muroran.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kowan/minatooasis/minato_muroran.html)

・みなとオアシス「函館」のHP:

[http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_kowan/minatooasis/minato\\_hakodate.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kowan/minatooasis/minato_hakodate.html)



【栗田港湾空港部長(左)と青山室蘭市長】



【むろらん港まつりの会場の様子】



【真田港湾計画課長(左)と片岡函館副市長】



【授与式の様子(五島軒)】

## ●「港フェスタ金沢2012が開催 ～大勢の人で賑わう金沢港～

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

平成24年7月14日(土)、海や船の魅力、港の役割などの紹介を目的とした「港フェスタ金沢2012」が金沢港無量寺埠頭を中心に開催されました。開催は今回で10回目となり、約2万2千人の来場者で賑わいました。

海上では、海上自衛隊の護衛艦「おおよど」および海上保安部の巡視艇「えちご」による体験航海、金沢港湾・空港整備事務所の港湾業務艇「わかな」による港内見学会が行われ、親子連れや高齢者を含む多くの市民が参加し、日常では体験できない海からの港の眺めを満喫していました。

無量寺埠頭では、地元物産品の屋台が並び、子供たちによるバントワリングや太鼓の披露などで大勢の市民が盛り上がりました。

また、昨年から実施することとなった「金沢港見学バスツアー」についても約300名の市民が参加されるという盛況ぶりでした。このバスツアーは、大型バスを使用し、普段立ち入ることができないコンテナ埠頭、国際物流ターミナルおよび防波堤ケーソン製作台船を徒歩で見学したり、石油基地等を車内から見学するもので、参加した市民は、実際に多くの物資が取り扱われる港湾施設の規模の大きさを体感し、港の役割や重要性を実感している様子でした。

今後も、今回のバスツアーのように、多くの市民に港が身近でかつ重要な役割を果たしていることを実感させるような工夫を重ね、金沢港の更なる振興につなげることをとしています。



【会場に訪れる市民】



【バスツアーの様子】

## ●大型クルーズ客船『コスタ・ヴィクトリア』境港寄港と課題

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

境港は、平成23年11月に日本海側拠点港(原木、国際コンテナ、外航クルーズ)に選定されており、官民をあげて港湾の利用促進に取り組んでいます。特に観光に関しては、中海・宍道湖・大山圏域市長会をはじめ、鳥取、島根の自治体が連携して外国人観光客の誘致に取り組んでいます。そんな中、平成24年6月7日(木)に大型外国クルーズ客船「コスタ・ヴィクトリア号」が境港に初寄港しました。これまで境港に入港したクルーズ客船では最大で旅客数も過去最多の2,084人でした。韓国などからの旅行客は、歓迎セレモニーが行われた後、バス37台に分乗し、約1,400人が松江城、大山、とっとり花回廊といった山陰の観光地を巡りました。

一方で、境港での取扱貨物は原木が多く、かつクルーズ船用バースが無いとため、原木取り扱いバースで外国からの観光客を受け入れざるを得ない状



クルーズ船「COSTA VICTORIA」

況になっています。この課題を解決するため、境港湾・空港整備事務所では、原木の取り扱いを集約化する、国際物流ターミナル整備事業〔岸壁(-12m)整備〕を平成24年度より実施しています。

また、クルーズ船用のバース整備計画があり、中国地方整備局を始め関係者が一丸となって取組を進めています。

### ●小松島港まつりにて協賛行事を開催

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

7月15日(日)、16日(月)の2日間、徳島県小松島市において「海の日」にふさわしい晴天の中「小松島港まつり」が開催されました。阿波踊りや自衛隊護衛艦の展示、花火大会等たくさんの催しが実施される中、当事務所は7月16日に協賛行事とし港湾業務艇「しまかぜ」による港見学会及び、海面清掃兼油回収船「みずき」の一般公開を実施いたしました。

港見学会については、3便予定されておりましたが、定員も早々に満員となり、なかなか経験することが無い「海から見る徳島小松島港」を楽しんでいただきました。また、「みずき」の一般公開についても、コンテナ内での流木の切断作業の見学や、搭載している機械の説明等を行い、特殊な作業船であるため子供たちにも大変人気があり興味をひいておりました。

今後も、港に関連したイベントを実施していく中で、みなさんに港の重要性や楽しさを体験していただきたいと考えています。



【港湾業務艇「しまかぜ」】



【海面清掃兼油回収船「みずき」】

### ●「クルーズ船見学会」を実施しました！

(那覇港振興協議会)

那覇港振興協議会では、海の日(7月16日)に会員を対象とした「クルーズ船見学会」を実施しました。前回は平成22年度に開催しており、2年ぶり2回目となります。

今回見学した“ボイジャー・オブ・ザ・シーズ”は、那覇港に寄港したクルーズ船では過去最大、日本に寄港するクルーズ船の中でも最大級の船となります。

見学会には、会員35団体中20団体、関係者を含め36名が参加し、同船の日本代理店である株式会社 ミキ・ツーリスト(東京都)の職員により、屋外・室内プールはもちろんのこと、スパ

